学校だより　7月号2

小倉小学校　平成３０年7月１３日

開校記念日（１１８年）によせて

７月１６日は本校の１１８回目の開校記念日となります。そこで、小倉小学校の歩みについて、まとめてみました。

小倉小学校が開校したのは明治３３年（１９００年）ですが、小倉地区に初めて学校ができたのは明治９年（１８７６年）で、下三毛に三毛小学校（のちに小倉上尋常小学校）、光恩寺境内に小倉小学校（のちに小倉下尋常小学校）が開校し、一時金谷地区の善楽寺に金谷小学校もありました。この２つの尋常小学校が合併してできた学校が小倉小学校の始まりです。

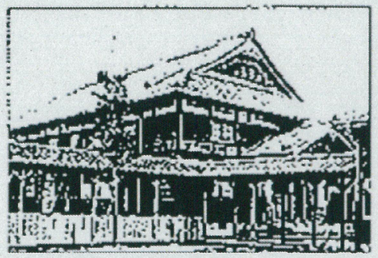
小倉小学校開校唱歌（金津鹿之助　作）
第１節
たれ穂いねの　色きわみ　年ある御代の　秋のそら
菊のわか苗　そだつべき　まなびの園は　ひらけたり
第２節
今日より開く　このそのに　生いたつきくの　若苗と
色さえ香さえ　浅からぬ　学びの花も　世にさかせ

明治３６年頃から奈良県五條市方面に日帰りの修学旅行が始まり、児童数が増えたため、明治４１年には、早くも南隣の土地を買収して校地を広げています。

机やいすは木で作ったものでした。着るものは「こんがすり」といって、着物を着て学校へ通いました。吐前に染物屋さんがあって、木綿糸を染めてもらいました。その糸を家で布に織って着物をつくりました。はきものは「わらぞうり」をはいて行きました。ランドセルがないので、ふろしきに学用品をつつんで、それをこしにまきつけて学校へ行きました。（古老の話…１００周年記念誌より抜粋）

大正時代になると、運動会が全国で盛んに開かれるようになりました。小倉小学校の運動会の始まりは、資料がなく、はっきりしたことはわかりませんが、校舎の増築で運動場が手狭となり、大正７年（１９１８年）からは、紀の川河川敷で運動会が行われるようになったという記録が残っています。当時の人気種目は、旗拾い競争、二人三脚などです。

また、大正15年には、現在の校章が制定されています。



講　堂

昭和７年（１９３２年）から１０年にかけて運動場の拡張工事、１０年から１１年にかけて校舎改築工事が行われました。充実した設備が整えられ、県下のモデル学校といわれました。なかでも、木造平屋建ての講堂は当時どこにも見ることのできないほどの立派なものでした。この講堂は、昭和５６年に解体されるまで、学校だけでなく、地域の文化振興のための会合等に利用されました。

戦争がはげしくなり、疎開してきた子どもが転入学し、教室は子どもでいっぱいになりました。空襲警報が出るたびに、子どもは帰宅し、解除されると登校するという毎日でした。敵機から機銃掃射を受けないために、麦畑のあぜ道を通って帰りました。

当時はラジオのある家は少なかったので、空襲警報が発令されると、学校のサイレンで村の人に知らせました。授業の始めと終わりの合図は鐘で知らせて区別していました。

（当時の教員　数内広子先生の話…１００周年記念誌より抜粋）

戦後の昭和２２年には、新制の小倉村立小倉小学校となり、その年の９月には敷地内に小倉中学校が開設されました。小倉中学校は昭和５５年年（１９８０年）に高積中学校の開校とともにその歴史を閉じました。

昭和３３年には、小倉村（船戸・山崎地区を除く）が和歌山市と合併し、和歌山市立小倉小学校となりました。

昭和４５年頃の本館（正面玄関）

昭和３６年の第二室戸台風により、校舎の倒壊・半壊の被害を受けました。翌年に初めて鉄筋二階建ての校舎ができます。

昭和４２年（１９６７年）には、現在のプールが竣工します。それまで水泳学習は水軒浜や磯ノ浦の海水浴場に出かけていたということです。

この後、昭和５０年に本館、同５３年に北校舎、同５５年に北校舎増築と給食室の新築、同５７年に体育館の新築竣工と、学校設備が新しく生まれ変わっていきます。

平成に入ってからは、同１０年に南校舎の増改築、北校舎のランチルーム・リラックスルーム・わくわく広場の増築が完了し、ほぼ現在の小倉小学校の姿となりました。

平成１２年には創立１００周年を迎え、記念式典のほか、記念行事として南校舎前のビオトープの設置などが行われました。

以上、小倉小学校の歴史を振り返ってみました。ご家庭でも、お子様と学校の歴史や昔の学校の様子などについて、話してみてはいかがでしょうか。なお、詳しい資料は「創立１００年記念誌　ふるさと小倉～その姿と心～」に掲載されています。閲覧・貸出希望の方は、学校まで申し出てください。これからも地域の学校として、この素晴らしい歴史と伝統を受け継いでいきたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。